

# 市長が行く

## 行政としての台風対策

No.114

茂原市長

田中豊彦



台風19号での被災地にお見舞いを申し上げますとともに、犠牲となった方々に心よりお悔やみ申し上げます。また一日も早い復旧に向けての協力は今後も惜しまず尽力していくつもりであります。

このコラムで、また台風に関して書かねばならないことに切ない思いですが、台風15号に続き日本列島を大型台風19号「ハギビス」が襲いました。この台風は多くの地域で記録的な大雨をもたらし、同時多発的に河川の氾濫を招きました。その結果、大変大きな被害が発生し、たくさんの方々が犠牲者が出たことにショックを受けた方も少なくないと思います。一級河川の氾濫は広範囲に及び、復旧の目途もなかなか立たないような状況です。

異常気象によるゲリラ豪雨や大型台風による被害が度重なる昨今、どのような対策を講じていくかが、大切な命を守る事へとつながります。大きな自然災害の前には、人間の力は本当に微力だと感じざ

る得ませんが、それでも私たちは少しでも自分たちでできることを考え準備していかなければなりません。

さて、今回の台風への茂原市の対応としては、いち早く第三配備体制を組み河川の越水と風による停電での被害に備えるべく体制を整えました。避難所は33カ所開設し、食料、水、毛布等を準備するとともに、土のうを約1万2千袋用意し配布しました。また、今回から初めて国交省、自衛隊、県、警察、消防団、消防本部等から災害対策本部会議に加わっていただき、万が一に備えました。

平成になってから三度大規模水害にあった茂原では、今回も越水することを想定し、特に過去に被害のあった地域には広報車を巡回させ、避難所への移動を明るいうちにしていただくよう何度となく勧告しました。それ以前にも個別に出向き、まだ避難されていない方々に早めに避難するよう対応しました。その結果延べ約

1700人の人たちが避難し、そして全員が無事だったことに安堵しております。今回は想定した程にはこの地域で降った雨が多くなかったことも幸いしましたが、日本各地で起こった災害は他人事ではありません。ラグビーのワールドカップが開催されている中で発生した今回の台風被害は、日本を訪れている海外からのファンの人々たちも巻き込みました。その中には一度も台風など経験したことのない人々たちもいたでしょうし、さぞや驚き、その恐ろしさをまざまざと見せつけられたのではないかと思います。カナダのチームのボランティア活動や、フランスのチームの被災地へのエールなどが、来年にはオリンピックも控え、今後は海外からの渡航客への対応なども考えていかなくってはならないでしょう。行政としての対策もより強固なものを求めて、頭を痛める毎日が続きそうです。

※災害に備えて、日頃から準備をしておきましょう。詳しくは、広報もばら8月15日号、9月1日号をご覧ください。